

## ケニアにおける超音波気管支鏡導入と専門看護師・臨床工学士育成

### ① 現地の状況やニーズなどの背景情報

ケニアでは、気管支鏡による肺癌診断体制が整備不足である。

### ② 事業目的

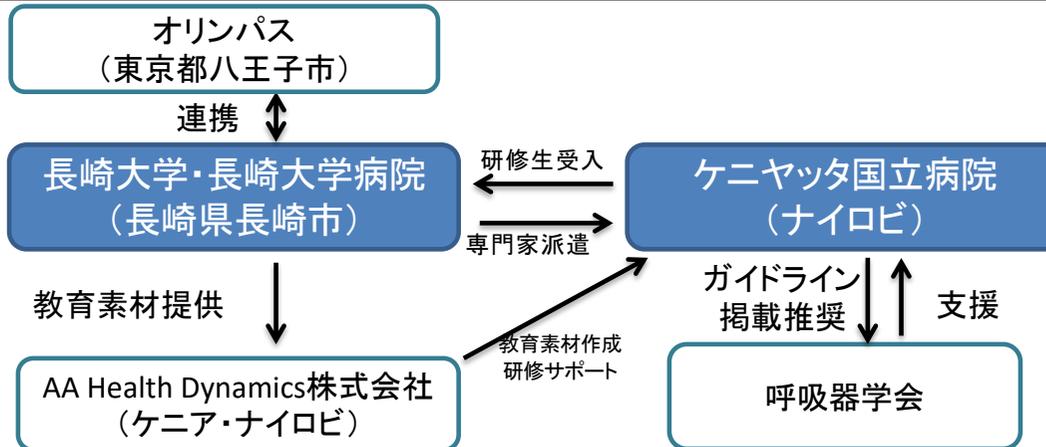
本事業は超音波気管支鏡検査（EBUS-TBNA、EBUS-GS）の導入と内視鏡看護・臨床工学技士による機器メンテナンス技術を導入することで、気管支鏡診療の向上を通じた医療水準の改善を目的としている。

### ③ 事業の概要

長崎大学が中心となり、ケニヤッタ国立病院（KNH）の医師、看護師、臨床工学技士を対象に、日本国内での研修（超音波気管支鏡技術指導、内視鏡看護、機器メンテナンス）および現地研修を実施する。また、オリンパスが技術研修の機材提供や指導を行い、ケニア民間医療企業であるAA Health Dynamicsが教育素材を現地に適合させ、KNHによる継続的な研修プログラムの構築をサポートする。

### ④ 期待される成果とその後の波及効果

超音波気管支鏡技術がケニアに定着し、KNHが他病院への研修を実施できる体制が構築される。また、気管支鏡、内視鏡看護、機器メンテナンス技術の国認証研修プログラムが令和7年に確立され、ケニア国内の肺癌診断と治療の質が向上する。



### <研修スケジュール予定>

9-10月 研修生受入（5名）（研修者研修）

・本邦研修（見学）

11-12月 専門家派遣（8名）（研修者研修）

・現地研修（座学・実技）

1月 専門医師、看護師、医療工学技士育成のための研修（オンライン+実技研修）

KNH/AA Health Dynamicにより実施